

査読者一覧 (五十音順, 敬称略)

池内和代	石上悦子	市原多香子	伊東美佐江
岩本真紀	大森美津子	岡久玲子	岡山加奈
掛田崇寛	片山陽子	加藤育子	川田紀美子
木宮高代	木村美智子	金正貴美	國方弘子
小林秋恵	佐々木睦子	塩田敦子	清水裕子
祖父江育子	田中美延里	谷本公重	辻京子
辻よしみ	筒井邦彦	峠哲男	當目雅代
徳永喜与子	中尾優子	名越民江	名越恵美
難波峰子	西村亜希子	野口純子	野原留美
芳我ちより	平井啓	藤井智恵子	藤井豊
舟越和代	古川文子	前川泰子	松井妙子
松本啓子	三浦浩美	實金栄	南妙子
森木ゆう子	森永裕美子	山居輝美	山村江美子
山本美輪	吉本知恵		

以上, 54名の先生方に感謝申し上げます。

編集後記

近年, デジタルトランスフォーメーション (DX) が社会の潮流となっている。学術研究においては, いつでもどこでもインターネットで多くの学術情報にアクセスができるようになった。文献収集はもちろんのこと, 研究内容によってはデータ収集もネットを介して行うことができる。そして, 論文投稿も査読もオンライン化が普通となった。教育現場では, オンラインで入手できない過去の研究については, 取り寄せることを教えなければ学生に気づかれず, デジタルネイティブと言われる学生達の中には, 製本した卒業論文よりもデータ保管を希望するものもいる。今後, DX化がますます進み, 看護教育で用いる教科書の完全オンライン化も早晚訪れるのだろう。この時代の変化は, 好むと好まざるとにかかわらず加速度的に進んでいる。受け止め方は様々だろうが, 本雑誌も時流に乗り, 未だ現実化していない査読システムの完全オンライン化が求められている。

本年度も本誌にて, コロナ禍の中で地道に研究を継続された投稿者の研究成果を無事に世に送り出すことができた。査読の先生方には大変お忙しい日々の中, 大変丁寧にご支援を賜りましたこと, 深謝いたします。また発刊までの全過程を滞りなく漕ぎ付けたことは, 多重業務の中で編集委員各自の強みを活かした看護職ならではの連携チームプレーに負うところ大である。皆様の変らぬご理解をお願いするとともに, 看護研究のさらなる進展を祈念して拙稿を終える。

2023年3月
編集委員長 渡邊久美

香川大学看護学雑誌編集委員会

委員長	渡邊久美		
委員	芳我ちより	辻京子	
	西村亜希子	野原留美	
	蔵本綾	大西敏美	
